

ホワイトボードを使うことで思考が深まると思い込んでいないだろうか？

●ホワイトボードの使い方のポイント

- ①班順に発表しない。時間のムダとなる。見れば分かる。各班のボードの比較・分類等に即、入るようにする。
- ②全員が意見を書けるボードにする。一部の子が意見を書く形式では、見ているだけの子が存在し続ける。
- ③班員の考えをホワイトボードの中で**検討し、改善**したことを「見える化」する。
- ④全員にマジックを持たせ、全員が自分の考えを書く。

●グループの考えを書き発表する方法（従来型）

× グループの一人が代表して班の考えを記入

一部の子供の意見しか書けないため、他の子はギャラリーになってしまう。結局は、班の中心のいつもの子が記入するため、他の子の考えは分からない。主体的・協働的な学びとはならない。

× 結果しか記入しない

一人もしくは全員で話し合ったことを箇条書きにする場合が多い。結果しか書かないため、検討した過程や改善の様子が見えない。

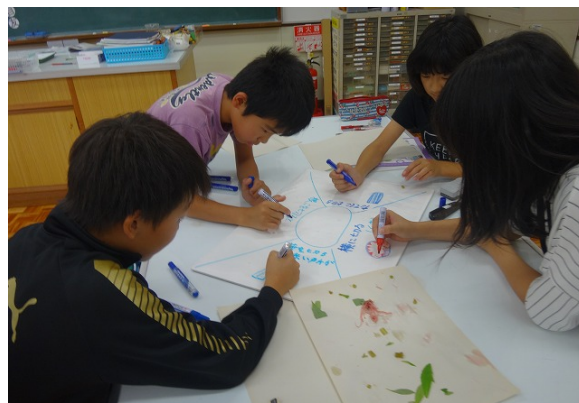
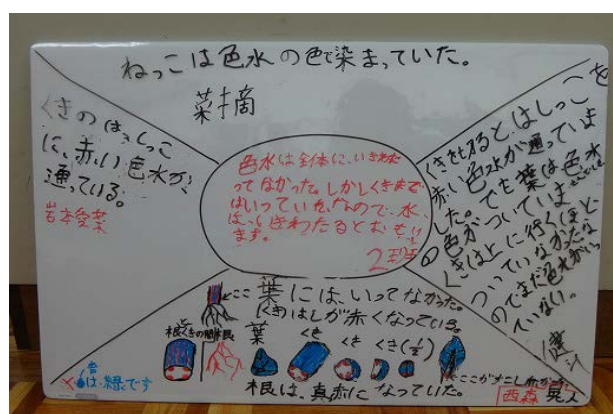
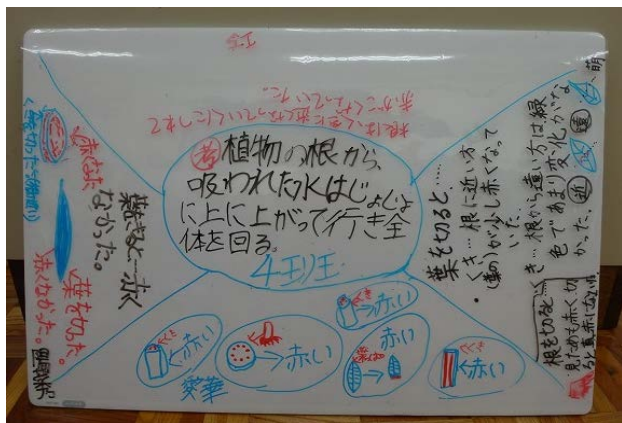
× 班の代表の子が順番に発表する

ホワイトボードの良さは、考えを視覚化出来ることだ。だが、その良さを生かし切れず、見れば分かることを1班から順に発表させることが多い。時間の無駄となり、授業が最後まで行き着かない原因の一つとなる。教師の意識が順に発表させるという意識が強いことに原因がある。

× マジックが1本しかないため、全員の意見が反映しにくい。

●班員の考えを検討して、改善策を書く方法

- ホワイトボードの最大のメリットは、すぐに消したり書いたりすることが出来ることだ。そのため、全員（仲間）の考えを視覚化出来る。ホワイトボード上で子供たちが自分の考えを「○○だ」「いや○○ではない」と議論しながら検討し、改善策を見つけるようにする。
- 考えを出し合う「道具」としてホワイトボードを位置づける。ホワイトボード上は、きれいにまとめようせず、らくがきの要素となってもよい。
- 全員にマジックをもたせ、記入させる。全員の考えの「見える化」ができる。
- 校内研究協議会は、模造紙に付箋を貼り検討する方法が多い。ホワイトボードに付箋を貼り、比較・検討・改善する方法もあるが、全教師が考えを直接記入し、検討し、改善策を見つける方法もある。



（写真は高知県中央小学校の授業）

ホワイトボードの大きさ（例）縦90cm×横60cm位（逆もあり）、ボードを支えの「イーゼル」もあるとよい。